幼稚園・保育園における「体育（体操）遊び」に関する調査研究(1)

―― 幼稚園における現状 ――

夏 目 恒 雄

1 はじめに

幼稚園教育要領・保育所保育指針が新たになって、当初は過去の保育の在り方と改正された保育の在り方において戸惑いがあったことは事実である。というのは、多くの心ある保育者においては先人たちが子どものために生涯を捧げた保育と同様に、それは子どものための保育であったかと思われるからでる。しかし、中には子供たちにとって必ずしも望ましいものばかりではなかった。

教育・保育を考える中で、この「望ましくないと思われる保育」が多くの批判の対象になり、改革の一歩となって進められてきた。このような中で、多くの幼稚園・保育園では人間の基本的な欲求である「幸福な楽しい生活」が基本テーマになって日々の保育が展開されていると考えられるが、その中でも幼稚園教育要領・保育所保育指針の中心になっている「遊びを通しての保育」としての具体的な手段の一つに、体育的・運動的要素が強い活動を保育の教材として取り組んでいる園が少なくないであろうと予想し、その現状を知ることによって、幼稚園教育の保育内容から眺めた、幼稚園における幼児期の適正な運動の在り方を検討するものである。その実態を知るために全国的な調査を実施した。

幼稚園教育要領・保育所保育指針では「遊びを通しての保育」を中心に「子どもが主役の保育」という考え方からすれば、体育的・運動的活動の在り方について、新・旧要領においても「日常の生活から遊離した特定の運動をさせてはいけない」とされながらも、運動は子どもたちの遊びの中で自発的活動として充分に経験させるべきであるとする（自由な活動）とする考え方と、一方では体育的・運動的要素の強い活動を設定し、集団的に一斉に実施することは教材であり、環境の一つとして準備されるものと解釈し一斉指導を実施するという２つの見方があげられる。いずれにしても両者共に「運動」の必要性は共通

する。しかし、方法において賛否両論に別れるであろうが、本調査は賛否ではなく調査の対象を限定的に取り扱い、各幼稚園・保育園で様々な体育的・運動的な要素の強い活動が展開されて、また保育計画の上からも様々な呼称が付けられて計画されていると考えられるが、「体育（体操）遊びに関する調査」として、その対象となるものは『「保育計画のなかで、設定保育活動として保育者または、専門の体育（体操）指導者等によって集団的に、継続的に指導実施されている体育（体操）遊び」を示し、特定の季節のみに実施される水泳・プール遊びなど及び、通常の保育活動で展開される運動遊び（ドッヂボール等）は除く』として実施した。

本稿では報告１として幼稚園の集計結果を基に報告する。また、アンケート中、記述回答及び、解答欄中「その他」の記述については、次回の報告の中でまとめることとする。

2　方　　法

方　　法：郵送によるアンケート調査
　　回答は、回答基準の統一化のために主任教諭（保母）に依頼

実施期間：1997 年 8 月～10 月

対　　象：全国の公立・私立の幼稚園・保育園の中からランダムに幼稚園 150 園、保育園 150 園合計 300 園を選出した。

公立幼稚園	75 園	
私立幼稚園	75 園	
公立保育園	75 園	
私立保育園	75 園	合計 300

回 収 率：

公立幼稚園	32／ 75	42.70%
私立幼稚園	28／ 75	37.30%
公立保育園	21／ 75	28.00%
私立保育園	17／ 75	22.70%
合　　計	98／300	32.70%

集　　計：各幼稚園、保育園を設置別及び、施設規模を園児数によって、Ａ：～99 人、Ｂ：100～199、Ｃ：200 以上の 3 グループに分け集計した。
　　統計的にはカイ自乗検定を行ない、20≦Ｎ≧40は Yates の修正をした。

3　結果及び考察

(1)　『質問１　貴園では、本調査で言う「体育（体操）遊び」を日常の保育の内容として実施してみえますか。』について（表１）

日常の保育において、何らかの形で「体育（体操）遊び」を実施しているかについては、公立・私立幼稚園合わせて60園中26園（43.30%）が「実施している」と回答している。「実施していない」とするものは34園（56.70%）であった。

施設規模別では、調査数が少ないために一つの傾向を捉えることは出来ないが、区分C（園児数200名以上）の幼稚園には10園（公立０、私立10園）が属し、私立幼稚園10園総てが「実施している」と回答している。区分B（園児数100～199名）の幼稚園では16園（公立７、私立９園）が属し、公立幼稚園の７園総てが「実施していない」と回答している。そして、私立幼稚園については９園中７園が「実施している」と回答し、２園が「実施していない」という結果である。区分A（～99名）の幼稚園は34園が属し、公立幼稚園１園が実施していると回答し、公立幼稚園の24園（C区分中公立総計25園）が「実施していない」と回答。そして、私立幼稚園においては、私立幼稚園８園が「実施している」と回答し、１園のみが「実施していない」と回答している。

このような結果から公立、私立の別無く幼稚園での保育活動を一概すると、半数以上が何らかの形で実施していると考えられたが、本調査結果からは幼稚園全体で「実施している」とする園が43.30%と半数を下まあった結果であった。また、公立、私立の設置別においては公立幼稚園では32園中「実施していない」と回答したのが31園とほとんどであった。私立幼稚園ではそれに反して、28園中25園が「実施している」と回答した。この両者は相対する結果となった。

特に保育の内容については、それぞれの幼稚園が基本的な事項を教育要領に従いつつ、園の独自性のもとに特色付けられているはずであるが、公立幼稚園においては独自の特色を持たないことが特色のようであり、本調査に言う「体育（体操）遊び」に関しても例外ではないようであり、前述の様に公立幼稚園32園中31園が「実施していない」という結果であったが、しかし、そのような中にあって「実施している」という回答が１園存在する。一般的に前述したように「独自の特色のないこと」が「特色」である公立の幼稚園が多い中にあって、この「体育（体操）遊び」が実施されているということは、設置条件・環境にもよるが、一石を投じているといえる。

一方、私立幼稚園においては、先の独自の特色を生かすことが私立幼稚園の存在理由でもあると考えられること、そして調査結果から見ても公立幼稚園とは対照的に28園

中 25 園が「実施している」と回答している。そして、3 園が「実施していない」としているが、これは、私立幼稚園では多くの幼稚園が「運動」を一つの特色としていると考えられる中で、他の活動を特色として持っているか又は、公立的な教育方針（幼稚園教育要領に忠実な教育課程）の園であると推測できる。

表 1　質問 1　本調査で言う「体育（体操）遊び」を、日常の保育の内容として実施して見えますか。

下段の数字は%を示す。

回　答		ア：実施している		イ：実施していない		小　計		合計
公・私の別		公　立	私　立	公　立	私　立	公 立	私 立	
施設規模（幼稚園）	A	1	8	24	1	25	9	34
	B		7	7	2	7	9	16
	C		10			0	10	10
小　計		1 ::.. 3.10	25 ::... 89.30	31 :::. 96.90	3 :::.. 10.70	32 100	28 100	60
合　計		26 ..... 43.30		34 ..... 56.70		60 100		

＊N.S.　＊＊, ＊＊＊, ＊＊＊＊, ＊＊＊＊＊P<0.05 P<0.01　＊＊＊＊＊＊N.S.

(2)　『質問 3　幼児の運動欲求はどのようにして満足させていますか』について（表 2）

質問 1 において「イ：実施していない」と回答した 33 園（公立 31園、私立 3 園）について、子どもたちの日常の運動欲求がどのように満足されているのかを尋ねた（複数回答）結果によると、複数回答であるが「ア：通常保育のなかで、遊びを通して満足させている」と回答したものが 63.00%、「イ：幼児たちの自由遊びの活動のなかで、満足させている」と回答するものが 34.80%であった。質問事項の「イ」についても「ア」の項目に入る解釈もあり明確な判断は出来ないが、一般的な教育要領の解釈にみる捉え方がされているといえる。このような結果をみると、ある意味で望ましい正解ともいえる保育活動であるが、留意されなければならない点は（批判の対象としてではなく）「遊びを通して満足…」、「自由遊びの中で満足…」とする「満足度」である。新しい保育の観点からすれば当然の解釈であるが果たしてこの満足度は、その観点から見た満足度、すなわち、子供達が満足しているかどうか、子どもたちの発達から捉えて満足されるものであるか否かである。先の改訂の中心的な問題は、子ども達のために善かれとしてきた教師の身勝手さ、教師（保育者）中心的な保育活動があったが、その点についてさらに点検する必要があろう。

表 2　質問 3　幼児の運動欲求はどのようにして満足させていますか。（複数回答）

下段の数字は％を示す。

回答		ア：通常保育の中で、遊びを通して満足させている		イ：幼児たちの自由遊びの活動の中で、満足させている		ウ：その他		小計		合計
公・私の別		公立	私立	公立	私立	公立	私立	公立	私立	
施設規模（幼稚園）	A	20		11	1	1		32	1	33
	B	7		2				9	0	9
	C		2		2			0	4	4
小計		27 ・ 65.90	2 ・ 40.00	13 ・・ 31.70	3 ・・ 60.00	1 2.40	0	41 100	5 100	46
合計		29 ・・・ 63.00		16 ・・・ 34.80		1 ・・・ 2.20		46 100		

＊P<0.05 P<0.01　＊＊P<0.05　＊＊＊P<0.05 P<0.01

(3)　『質問５　貴園では、本調査で言う「体育（体操）遊び」の指導（保育）は、どのような先生が担当していますか。』について（表３・複数回答）

質問１において「ア：実施している」と回答した26園（公立１、私立25）において先の条件である『「体育（体操）遊び」を設定保育活動として保育者、また専門の指導者によって集団的に、継続的に実施されている』を満たしている保育の内容として実施されているかということであるから、その保育の内容を指導しているのはどのような先生においてなされているかを聞いたところ「エ：非常勤で専門又はトレーニングを受けた先生」が指導を担当しているという回答がもっとも多く53.00％であった。ついで「オ：その他」への回答が26.50％であり、この「その他」とは、回答「ア・イ・ウ・エ」の内２以上の条件、すなわち「アとエ」の両方の回答になる先生において指導がなされている等の場合も含められている。そして、「ア：一般の教諭」と回答したものが17.60％、回答「ウ：専任の教諭で専門又トレーニングを受けた先生」が2.9％と１園であった。また、回答のなかった「イ：専任の教諭で運動好きな先生」が指導を担当するということはないという結果となっている。

このように指導の担当者について尋ねた結果からすると「体育（体操）遊び」の指導については、多くの幼稚園で「非常勤であるが体育指導のトレーニングを受けたことのある専門家」に依頼している。そして、専門の先生に依頼しながら同時に一般の教諭による指導も実施されている。

一般の父母（教諭）による指導がされているのは、A区分で公立１．私立１．Ｂ区分

で公立１．そして、Ｃ区分で私立３という結果となっている。これは規模また設置別からみて教諭の確保ができるかどうかといった点が影響しているのではないか。しかし同様の規模の幼稚園においても非常勤で専門のトレーニングを受けた先生に依頼している幼稚園も８園あり、多くの先生がいれば対応できるかといえば必ずしもそのようではない。全体として各幼稚園での本調査で言う「体育（体操）遊び」の指導者については、どのような規模の幼稚園においても実施するためには「非常勤の専門家」を依頼している。そして規模の大きな幼稚園にあっては専門家に任せるだけではなく一般の教諭も指導にあたる保育の内容となっているようである。

多くの幼稚園が専門家（トレーニングを受けた指導者など）に指導を依頼しているということは、少なくとも「体育（体操）遊び」の指導の内容が、いわゆる「体育（的）」（小学校の教科体育の内容に近い、あるいはスポーツ種目の指導に近い）になっているのではないかと思われるために、結果的に専門の知識を持った指導者に依頼となっていると推測される。

幼児にとっては非常勤の先生が担当される時間などは日常の園生活と異なり比較的具体的な活動であることで興味・関心を強くし、活動意欲も旺盛になるとも言える。しかし、幼稚園での体育（体操）遊びの内容が、小学校の教科的、あるいはスポーツ教室的になることがあるとすれば、それが保育の内容の中心になったり、技術の追求になったり、過度の指導ならないように留意し、日常の教育課程との関連を十分に検討しながら進められることを期待するものである。

表３　質問５　本調査で言う「体育（体操）遊び」の指導は、どのような先生が担当していますか。

下段の数字は％を示す。

回答		ア：一般の保母		イ：専任教諭で運動の好きな先生		ウ：専任の教諭で専門又トレーニングを受けた先生		エ：非常勤で専門又トレーニングを受けた先生		オ：その他		小計		合計
公・私の別		公立	私立	公立	私立	公立	私立	公立	私立	公立	私立	公立	私立	
施設規模（幼稚園）	A	1	1						5		2	1	8	9
	B	1							5		1	1	6	7
	C		3				1		8		6	0	18	18
小計		2 100	4 12.5	0	0		1 0.30		18 56.3		9 28.1	2 100	32 100	34
合計		6・ 17.60		0		1・ 2.90		18・ 53.00		9・ 26.50		34 100		

＊P＜0.05　P＜0.01

(4)　『質問6　専門の先生又はトレーニングを受けた先生とは具体的にどのような先生ですか。』について（表4）

本調査で言う「体育（体操）遊び」を実施しているという回答した幼稚園の多くは、非常勤であるが専門の指導者を依頼しているということであったが。その指導者とはどのような先生なのかを尋ねた。

公立の幼稚園では質問4において「一般の教諭」が指導に当たるとする回答のため当該する先生はいない。私立幼稚園の45.50%が「ア：体育学部卒業生」と体育指導の専門的知識のある人材の起用、ついで「エ：その他」が27.30%、この「その他」とは、幼児のための体育の専門家ではないが、その記述回答より示せば「スイミングスクール指導員」「剣道師範」「インストラクター」等いずれも体育学部卒業生などと同類に、体育・運動スポーツの専門家という人材であるといえる。そして、幼稚園での調査ということから特に限定的に「イ：幼児体育等の専門トレーニング受講者」と言う回答項目を準備したが、回答は22.7%と以外にも少ない結果であった。この種の非常勤の教諭の採用に関しては、イコール（＝）体育、イコール（＝）体育学部という認識が一般的かとも推測される状況である。又、その他への回答が例示のようなことから、私立幼稚園の独自性、特色という点から、「体育（体操）遊び」の目的を具体的にしているために、その道の専門家という選択も多くの幼稚園の人材の選択肢になっていると考えられる。また、回答「ウ：運動スポーツの得意な先生」は1園であったが、ただ単に運動・スポーツが得意だけではその指導者の対象とする幼稚園は少ないようである。

表4　質問6　専門の先生又トレーニングを受けた先生とは、具体的にどうのような先生ですか。

下段の数字は%を示す。

回答		ア：体育学部卒業生		イ：幼児体育等の専門トレーニング受講者		ウ：運動スポーツの得意な先生		エ：その他		小計		合計
公・私の別		公立	私立	公立	私立	公立	私立	公立	私立	公立	私立	
施設規模（幼稚園）	A		3		2		1		1	0	7	7
	B		4		2				2	0	8	8
	C		3		1				3	0	7	7
小計		0	10 45.5	0	5 22.7	0	1 1.20	0	6 27.3	0	22 100	22
合計		10・ 45.50		5・ 22.70		1・ 1.20		6・ 27.30		22 100		

＊N.S.

(5)　『質問７　専門の先生又トレーニングを受けた先生とは女性ですか、男性ですか。』について（表５）

専門の先生又トレーニングを受けた先生の性別について尋ねたところ、一般の教諭が指導に当たると回答した１つの公立幼稚園では「女性」であった。しかし私立幼稚園の多く（85%）が「男性」と回答している。また、男性、女性の両方と回答しているのは、男性の専門家と同時に一般の教諭である女性の教員によって実施されているという結果であった。幼稚園という職場の環境になかに男性が所属するというケースは今日まだ少ないようであり、非常勤の専門家を依頼となれば女性ばかりの先生のなかで「活動的で力強い」イメージのある「男性」として、あるいは、活動的で力強いという点と合わせ園の先生が女性のばかりという不自然さからくる「人的」環境の整備への一助という点も含められるのか、あるいは両方に起因するのか、いずれにしても「男性」を選択する傾向にあると推測できる。

表５　質問７　専門の先生又トレーニングを受けた先生とは女性ですか、男性ですか。

下段の数字は%を示す。

回答		ア：女性		イ：男性		ウ：両性共		小計		合計
公・私の別		公立	私立	公立	私立	公立	私立	公立	私立	
施設規模（幼稚園）	A	1			7			1	7	8
	B				6			0	6	6
	C				4		2	0	6	6
小計		1 100	0	0	17 89.50	0	2 10.50	1 100	19 100	20
合計		1・ 5.00		17・ 85.00		2・ 10.00		20 100		

＊P<0.05 P<0.01

(6)　『質問９　本調査で言う「体育（体操）遊び」の計画は、季節などによって異なるかと思いますが、一週間の中で何曜日に計画されることが多いですか。』について（表６）

幼稚園でのこうした「体育（体操）遊び」を計画するにおいて、他の保育の内容との関連のなかで単純に小学校的な時間割りを編成することは不可能であることは言うまでもないことであるが、現実的に多方面からの日常保育との関連のなかに計画することは逆に大変困難なことから、専門の担当者と教諭、あるいは園との話し合いによって計画が進められるのが一般的であろうと考えられる。

この調査結果からは、火曜日がもっとも多く 30.40%、次いで月曜日が 17.40%となっている（ ＊ P<0.05 ）。幼稚園の経営管理・教育管理と言う立場から眺めると、調査に

みられるような設定的な活動は週の前半に設定されやすいと考えてよい。また保育の内容から眺めても、日曜日を挟んで週の始めに子どもたちの欲求を満足させるためにも活動的な、ダイナミックな保育内容をセットすることで意欲を持って登園する、あるいはさせるという意図があるようである。このことは必然的にそうした教育的配慮と同時に、週間の中間では落ち着いた、本来あるべき姿としての幼児中心の、子どものための保育を多くの幼稚園がめざしていると考えられる。

表6　質問9　本調査で言う「体育（体操）遊び」の計画は、季節などによって異なるかと思いますが、一週間の中で何曜日に計画されることが多いですか。（複数回答）

下段の数字は%を示す。

回答		ア：月		イ：火		ウ：水		エ：木		オ：金		カ：土		キ：その他		小計		合計
公・私の別		公	私	公	私	公	私	公	私	公	私	公	私	公	私	公	私	
施設規模（幼稚園）	A	2	1	1	6		2	1	3		1					3	14	17
	B		2		3		2		2		3		1			0	13	13
	C		3		4		3		1		2				3	0	16	16
小計		2 66.6	6. 14.0	1 33.3	13. 30.2		7. 16.3	1 33.3	6. 14.0		6. 14.0		1. 2.30		3. 7.00	3 100	43 100	46
合計		8 .. 17.40		14 .. 30.40		7 .. 15.20		7 .. 15.20		6 .. 13.00		1 .. 2.20		3 .. 6.50		46 100		

＊P<0.005　＊＊P<0.05

(7)　『質問10　本調査で言う「体育（体操）遊び」の計画の対象は何才児ですか』について（表7）

各幼稚園での「体育（体操）遊び」の指導の対象となっている年令を尋ねたところ、「オ：在園児全員」と回答した幼稚園が12園、次いで「エ：4・5才児」と回答した幼稚園が11園、そして「ア：5才児（年長）のみ」と回答した幼稚園が3園という結果であった。

「ア：5才児（年長）以上」と回答した幼稚園では身体的に運動を行なうにふさわしい身体が出来上がり、運動に対する欲求も多く豊かになってきた。さらには小学校教育との関連のなかで必要性から実施されるに至ったか、もしくは「体力と年令」から捉えてみると運動・スポーツに偏った活動が保育の内容として展開されているとと推測できる。しかし、多くの幼稚園についてみると、「オ：在園児全員」と言う回答が12園(46.20%)ともっとも多く、それぞれの年令の発達にあわせた運動欲求として教育課程の中に展開されていると考えられる。

本調査で言う「体育（体操）遊び」というものは、方法はどうであれ基本的な理念としてはどのような回答をした幼稚園においても、各年令にあったふさわしい基本的な運

動（歩く、走る、飛ぶ、転がる、投げるなどの全身を使った動的活動）から集団での遊びへと発展していくこと。そして自己欲求にもとずいて、体を動かす遊びを通して満足感と情緒の安定を得ると同時に、身体的発達を促し他の保育の内容と相俟って幼児の自発的な自由な遊びをより豊かに望ましい方向に発展できるような期待を持って実施されていると考えてよいのではないか。

表 7　質問 10　本調査で言う「体育（体操）遊び」の計画の対象は何才児ですか。

下段の数字は%を示す。

回答		ア：5才児（年長）のみ		イ：4才児（年中）のみ		ウ：3才児（年少）のみ		エ：4・5才児（年中）のみ		オ：在園児全員		カ：その他		小計		合計
公・私の別		公	私	公	私	公	私	公	私	公	私	公	私	公	私	
施設規模（幼稚園）	A							1	6		2			1	8	9
	B		1						3		3			0	7	7
	C		2						1		7				10	0
小計			3 12.0					1	10 40.0		12 48.0			1	25 100	26
合計		3・ 12.00		0		0		11・ 42.00		12・ 46.00		0		26 100		

＊P＜0.05，P＜0.01

(8)　『質問 11　本調査で言う「体育（体操）遊び」は、どのようにして計画されていますか』について（表 8）

各幼稚園では、身体諸機能（心身として）の調和的な発達を図ることという幼稚園の目標の達成のために、ひとつの手段であったり、教材としての「体育（体操）遊び」を保育の内容に含めていると考えられるが、そのようなときに保育の内容として幼稚園教育のなかにどのように位置付けられていくかを「どのようにして計画されますか」として尋ねた結果、「イ：園の教育課程の上に、体育（体操）遊びの時間を確保し、内容は体育（体操）遊びの先生に任せている」と言う回答が 13 園（46.20%）ともっとも多く、ついで「ア：園の教育課程の上に、それぞれの保育の内容に系統的に組み込んでいる」と回答したのが 11 園(42.30%)、「ウ：系統的ではないが、教育課程のなかで意識的に構成している」と回答したのは 2 園と大変少なかった。これらの結果から基本的には各幼稚園ともになんらかの形で、他の教育内容との関連、もしくは全体の教育課程の流れのなかに設定している様子が伺えるが、具体的な内容において「専門に先生に任せてしまう」という点が、教育の専門家集団としては消極的すぎるのではないか。むしろ積極

的に内容についても協議し、より適切な、日常の生活と遊離しない内容として実施されることが望ましいのではないか。一方回答「ア：園の教育方針の上に、それぞれの教育課程に系統的に組み込んでいる」とされた幼稚園においては、少なくともこのような教育者の積極的な参加又は教育者集団としての園として参加がされていると推測できるものである。

表8　質問11　本調査で言う「体育（体操）遊び」は、どのようにして計画されていますか。

下段の数字は%を示す。

回答		ア：園の保育計画の上に、それぞれの保育の内容に系統的に組み込んでいる。		イ：園の保育計画の上に、体育（体操）遊びの時間を確保し、内容は体育（体操）遊びの先生に任せている。		ウ：統計的ではないが、保育計画のなかで意識的に構成している。		エ：子供の活動欲求、要求があれば、各保母によって臨機応変に実施している。		オ：その他		小計		合計
公・私の別		公立	私立	公立	私立	公立	私立	公立	私立	公立	私立	公立	私立	
施設規模（幼稚園）	A	1	3		3		1					1	7	8
	B		2		6							0	8	8
	C		5		4		1					0	10	10
小計		1 100	10 ・ 40.0	0	13 ・ 52.0	0	2 ・ 8.00	0	0	0	0	1 100	25 100	26
合計		11 ・・ 42.30		13 ・・ 50.00		2 ・・ 7.70		0		0		26 100		

*，＊＊P<0.05、P<0.01

(9)　『質問13　本調査で言う「体育（体操）遊び」の実施方法はどのようですか』について（表9）

各幼稚園ともに様々な教育（保育）理念のもとに実施されている「体育（体操）遊び」であるが、その実施方法について尋ねたところ「ア：クラス別で一斉指導」と回答したのが19園（70.40%）ともっとも多く、次いで、6園（22.20%）が「イ：年齢別で一斉指導」と回答している。このことは当然であるが、いわゆる1クラス単位で多くの幼稚園が実施していることになり、更に設置規模からすると小規模の幼稚園は1クラス当たりの幼児数から見て、本調査で言う「体育（体操）遊び」のような設定は適当でなく、年齢別に構成し、クラスの枠を越えてある程度の人数を確保し集団遊びの楽しさを体験させているであろうと推測したが、しかし、設置規模別に見てもどの規模の幼稚園も「ア：クラス別で一斉指導」を採ることが多いという結果であった。

「ア：クラス別で一斉指導」と「イ：年齢別で一斉指導」に大きく別れていることか

らみると、園の規模に関わらず多くの幼稚園、あるいは多くの担当教諭としての「クラス意識」というものは、小学校以上の学校的なクラス意識が強く現われているのではないかと推測できる。これは小人数のクラス単位の中から仲間意識を養い、身近な友達を通して刺激し合うという点では問題はなく、また適当であるともいえる。しかし、一方で「体育（体操）遊び」あるいは「運動遊び」といわれるものが、教育計画の上に教育課程の一部として存在するとするならば「クラスの枠」「年令の枠」を越えた構成があってもよいのではないか。ある種の既成概念に捉われない自由な子どもたちの遊びを通しての発展、また多くの幼稚園で考えるように一斉指導から個々の活動への発展という相反する２つの方向からの援助、あるいは環境を構成されることも期待するものである。

表９　質問 13　本調査で言う「体育（体操）遊び」の実施方法はどのようですか。

下段の数字は％を示す。

回答		ア：クラス別で一斉指導		イ：年齢別で一斉指導		ウ：縦割り・混合保育で一斉指導		エ：その他		小計		合計
公・私の別		公立	私立	公立	私立	公立	私立	公立	私立	公立	私立	
施設規模（幼稚園）	A	1	6		2					1	8	9
	B		5		3					0	8	8
	C		7		1				2	0	10	10
小計		1 100	18・ 69.2	0	6・ 23.1	0	0	0	2・ 7.6	1 100	26 100	27
合計		19・・ 70.40		6・・ 22.20		0		2・・ 7.40		27 100		

＊P<0.05，P<0.01　＊＊P<0.05，P<0.01

⑽　『質問 14　本調査で言う「体育（体操）遊び」の実施内容は、主にどのようなものですか』について（表 10）

「体育（体操）遊び」とはいっても、各幼稚園とも様々な内容で展開していると推測するが、中でも取りまとめて主にどのようなものを実施されているのかを尋ねたところ、「ウ：複合運動と単一的運動を保育計画に合わせ適宜実施」と回答した園が 13 園（44.80%）ともっとも多く、次いで「イ：比較的　鉄棒、マット、跳び箱を利用した単一的運動を中心に実施」と回答した園が７園（24.10%）、そして「オ：その他」と回答した園が５園（17.20%）、そして「エ：サッカー、体操などの各種のスポーツ種目などを中心に実施している」・「ア：比較的　フィールドアスレティック的な複合運動を中心に実施」と回答した園が各２園（6.90%）という結果であった。多くの幼稚園では多様な変化のある運動内容を吟味され、日常の保育との関連を捉えた偏りのない立体的な保育内容と

されていると推測できる。しかし一方で24.10%が「イ：比較的　鉄棒、マット、跳び箱を利用した単一的な運動を中心として実施されている」という回答、そして2園ではあるが「サッカー、体操などの各種のスポーツ種目などを中心に実施」している点から、それらを「教材」としてのみ検討すれば小学校の体育の内容と近似していたり、スポーツ教室の内容に近似していたりすると「学校」という集団教育施設での幼児教育の場としてはいささかその内容を逸脱していく恐れがあり、その教材が単に跳び箱運動のための跳び箱であったり、マット運動のためのマットであったり、スポーツのためのスポーツであったりすると、小学校の体育・スポーツ教室といわざるを得ない状況とも言える。

単に単一的な教材として利用したり、各種のスポーツ種目を取り入れ、それが小学校体育・スポーツ教室に近似していようとも、その教材を利用して幼児の活動に適した運動の内容が構成され、その運動内容の発展であったり、幼児の運動欲求にこたえるための教材として十分に吟味活用し、日常の生活から遊離した運動にならないように心がけられていれば、その心配も不要である。

表10　質問14　本調査で言う「体育（体操）遊び」の実施内容は、主にどのようなものですか

下段の数字は%を示す。

回答		ア：比較的フィールド・アスレティック的な複合運動を中心に実施		イ：比較的鉄棒、マット、跳び箱等を利用した単一的運動を中心実施		ウ：複合運動と単一的運動を保育計画にあわせ適宜実施		エ：サッカー、体操等の各種のスポーツ種目などを中心に実施		オ：その他		小計		合計
公・私の別		公立	私立	公立	私立	公立	私立	公立	私立	公立	私立	公立	私立	
施設規模（幼稚園）	A		1		2	1	4				2	1	9	10
	B				2		4		1		1	0	8	8
	C		1		3		4		1		2	0	11	11
小計			2・7.10		7・25.0	1	12・42.9		2・7.10		5・17.0	1 100	28 100	29
合計		2・・6.90		7・・24.10		13・・44.80		2・・6.90		5・・17.30		29 100		

＊P<0.05　＊＊P<0.05

(11)　『質問15　本調査の対象となるような「体育（体操）遊び」の今後の必要性について』について（表11）

本アンケート調査の依頼のなかで「体育（体操）遊び」というものを「保育計画のなかで、設定的活動として保育者又は専門の指導者によって集団的に、継続的に実施される活動」（略）と限定しての調査としているが、このような範囲に入る内容として今後

の保育にあって必要とするか否かを尋ねた結果、「ア：今後必要と思う」と回答した園は公立幼稚園で 4 園、私立幼稚園で 22 園合計 26 園（44.10%）、そして反対に「イ：特に必要ないと思う」と回答した公立幼稚園が 23 園、私立幼稚園で 4 園合計 27 園（45.80%）であった。そして「ウ：その他」は公立幼稚園で 4 園、私立幼稚園で 2 園合計 6 園という結果となり、今後の必要、不必要に関しては総合的に数字の上からみると意見が 1／2 に別れ、いずれかが半数を上回る状況ではなかった。ただし、もっとも顕著なものが、公立幼稚園と私立幼稚園の対比である。

公立幼稚園をみると公立幼稚園 31 園の内 74.20%の 23 園が「特に必要ないと思う」と回答し、「今後必要と思う」と回答した園 4 園（12.90%）を大きく上回った。すなわち、公立幼稚園では少なくとも、このような調査の「体育（体操）遊び」は「必要ない」という考え方が体勢を占めている。そして私立幼稚園についてみると私立幼稚園 28 園の内 14.30%の 4 園が「特に必要ないと思う」と回答し、反対に 78.60%の 22 園が「今後必要と思う」と回答し、私立幼稚園では、このような調査の「体育（体操）遊び」は「今後必要である」という考え方が体勢を占めているという、公立幼稚園と私立幼稚園では相反する考えであるという結果となった。

新しい教育要領のなかで画一的な指導であったり、押しつけの指導であったりすることがないように、遊びを通しての保育が強調されている（これは必ずしも新指導要領で取り上げられている新しい保育ではなく、従来からも学校教育法でも示唆している事柄であるが、十分にいかされていなかったという事であると考える。）中で“させる”ということへの批判から、特にこのような設定的な活動がいかにも批判の対象と受け取られること、そして「公立」という設置者からみて、基本的な理想を園の方針として掲げることは公立という保障の上に教育（保育）の看板にすることはいささかの不安もない。しかし私立幼稚園では基本的な保障という問題の上に理想主義のみに囚われることができないという厳しい現実の問題がある。それは言うまでもなく、私立幼稚園において公の性格を持つことと同時に、私立としての独自性をどのようにだすかという点で、多くの幼稚園が発達の著しいこの時期の教育の課程として「心身の健康」をテーマに具体化すると、このような結果となるのではないか。私立幼稚園のみならず公立幼稚園においても 12.90%の幼稚園が、今後の必要性をあげていることは少なくとも幼稚園における幼児たちの運動欲求を満たす環境が十分でないということでもあると推測できる。

表 11　質問 15　本調査の対象になるような「体育（体操）遊び」、の今後の必要性について。

下段の数字は%を示す。

回　答		ア：今後、必要と思う		イ：特に必要ないと思う		ウ：その他		小　計		合計
公・私の別		公　立	私　立	公　立	私　立	公　立	私　立	公　立	私　立	
施設規模（幼稚園）	A	3	8	18	1	4		25	9	34
	B	1	7	5	2			6	9	15
	C		7		1		2	0	10	10
小　計		4 ‥ 13.00	22 ・ 78.60	23 ‥ 74.00	4 ・ 14.30	4 ‥ 13.00	2 ・ 7.10	31 100	28 100	59
合　計		26 ・・・ 44.00		27 ・・・ 45.8		6 ・・・ 10.20		59 100		

*，＊＊，＊＊＊P<0.05 P<0.01

⑿　『質問 16　保育時間以外に幼児を対象としたスポーツ教室などを開設して見えますか』について。（表 12）

近年は「健康スポーツ」が社会の流行になり、テニスコートには青年男女の歓声ばかりでなく壮年の夫婦、グループ。さらに、シルバーといわれる世代の先輩たちの歓喜の姿がある。テニスのみならず、ゲートボール、バレーボール等様々なスポーツにその姿がみられる。そして、この傾向は地域から家庭のなかへ浸透し、子どもたちのスポーツは子供たちのものだけに止まらず家庭という社会のなかで親子で楽しむスポーツに発展し、幼児のためのスポーツ教室は産業として益々の発展をしている。一つの社会現象のようである。

本調査は「体育（体操）遊び」が保育の内容の一つとして、教育課程のなかに計画されているかどうかという調査であったが、最後に幼児教育の中でも狭義の教育施設として捉えられる学校教育の一つとしての幼稚園で本来の教育活動とは別に「スポーツ教室」を開設しているかどうかについて尋ね次のような結果を得た。この項目は数字のみ述べる。

「開設している」と回答した園は、公立を含める全回答幼稚園の 25%15 園（全私立）、そして「開設していない」と回答した幼稚園は 75 %（全公立 31 園、私立 14 園）という結果である。当然の予想であるが公立幼稚園では総ての幼稚園で開設していない。しかし私立幼稚園においては私立幼稚園 29 園中 15 園 52 %が開設していると回答し、14 園 48%が開設していないと回答している。

表 12　質問 16　保育時間以外に幼児を対象としたスポーツ教室などを開設して見えますか。

下段の数字は%を示す。

回　答		ア：開設している		イ：開設してみたいと思っている		ウ：開設していない		小　計		合計
公・私の別		公　立	私　立	公　立	私　立	公　立	私　立	公　立	私　立	
施設規模（幼稚園）	A		4			25	5	25	9	34
	B		6			6	4	6	10	16
	C		5				5	0	10	10
小　計		0	15 ・ 51.70	0	0	31 100	14 ・ 48.30	31 100	29 100	60
合　計		15 ・・ 25.00		0		45 ・・ 75.00		60 100		

＊N.S.　＊＊P<0.05, P<0.01

4　まとめ

幼児の運動に関しては、直接的には領域“健康”編に関係してくるが、その“ねらい”からみても挙げられている3つの“ねらい”のうち「(2)自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする」を基に、各園での保育計画の中にそれぞれの園の特性にあわせて、様々な形で展開されているのがここに取り上げた「体育（体操）遊び」であるといえる（園によって名称は多様である）が、本調査は「体育（体操）遊び」を「実施している」とする回答者を中心に調査をしているが、その実施について多くの幼稚園が次のような方法で実施していることが明らかになった。

① 全国的（公立・私立）にみると43%が「体育（体操）遊び」を実施している。しかし57%が実施していないとし、実施していない幼稚園では通常の保育のなかで、遊びを通して満足させたり、自由遊びの活動の中で満足させているという新指導要領的回答であった。

② 多くの園が非常勤で専門又トレーニングを受けた先生が指導にあたるとし、一般の保育者が指導するのは約18%の園であった。

③ その先生は専門家としての体育学部卒業生、各種のインストラクターという専門家であった。

④ その先生は男性であることが圧倒的に多い。

⑤ 週案の流れ（計画）の中では火曜日に計画設定されるところが最も多く、次いで月曜日と週の前半に設定されることが多い。

⑥　多くの幼稚園では指導の対象を３・４・５才児としている。

⑦　実施にあたって多くの園が、園の保育計画の上に体育遊びの時間を確保し、内容は指導の先生に任せている。

⑧　指導方法は年齢別で一斉指導とするところが多い。

⑨　内容は複合的運動と単一的運動を保育計画にあわせて適宜実施するというものであった。

総ての園を対象に、今後の必要性について尋ねたところ次のような結果を得た。

⑩　「体育（体操）遊び」の今後の必要性については、公立幼稚園で74％が「特に必要ないと」回答、約13％が「今後、必要と思う」と回答した。また、私立幼稚園では公立幼稚園とは反対に約77％が「今後、必要と思う」と回答し、「特に必要ない」とするのは約13％であった。

総ての園を対象に、幼稚園とスポーツ教室の併設に関して次のような結果を得た。

⑪　スポーツ教室の開設状況については、公立は皆無。私立幼稚園においては「開設している」「開設していない」の回答はともに約50％であった。

5　おわりに

幼稚園教育要領の全面的な改訂がされ、すでに６年が過ぎようとしています。そこでは環境を通して行なうものであることを幼稚園教育の基本として、教育を行なう際に重視しなければならない点として次の３点をあげている。

(1)　幼児の主体的な活動を促し幼児期にふさわしい生活が展開されるようにすること

(2)　遊びを通しての指導を中心として幼稚園教育のねらいが総合的に達成されるようにすること

(3)　幼児一人一人の特性に応じ発達の課題に即した指導を行なうようにすること。

として、全国では様々な形で説明会が開催され新しい幼児教育の在り方が周知徹底されるように働き掛けられた。その中でも本調査の内容に直接関連するものとして領域“健康”の中で「…幼児の生活と遊離した特定の運動を行なわせることのないように留意する必要がある。」（領域“健康”）と留意しなければならないことが添えられている。

これは、特に運動に関して最も陥りやすい点について示されているものであり、多くの幼稚園が従来の教育の在り方の中で「幼児教育」という言葉を学校教育法で法制化されている「幼稚園」の教育のみならず、そのような幼稚園を含んだ幼児期の教育（広義）として解釈するところに問題があり、社会教育の一つとしての幼児期の教育（旧来から

の“おけいこ”と呼ばれるものに並ぶスポーツ教室等の存在）への期待が、多くの保護者に受け入れられてきたために陥った幼稚園での過剰教育であったと理解する。こうした時代の流れの中で、幼児の幼稚園での運動に関して幼稚園教育の目標の具体化の１つの手立てとして、様々な方法が講じられている様子が伺える。そして、その取り組みには敬服するばかりであった。そして総ての園が、幼稚園における幼児の生活が“幸福で、楽しい生活”であるようにと願って努力されていることを確信したい。

今後の課題としては、このような全国調査に関連して、地域別の傾向を探り、様々な形で計画、実践されている傾向を明確にしたい。これを機に関係諸先生方のご協力と御示唆を願いたいと存じます。

最後になりましたが、突然の依頼にかかわらず、本調査に快く回答くださいました幼稚園の園長先生をはじめ主任の先生及び、協力くださいました関係の方々にお礼申し上げますと共に今後のご活躍と貴園の御発展をお祈りいたします。

そして、中学校の夏休みを利用して私の研究室を尋ね、アンケート用紙の発送など大変な事務を手伝って音を上げた次女 紗与 にも感謝します。

「体育（体操）遊び」に関するアンケート調査

名古屋柳城短期大学　　夏目　恒雄
飯田　和也
☎　052 - 841 - 2635

アンケート調査のお願い

先生方には、ますますご健勝のこととお慶申し上げます。
さて、この程幼稚園・保育所における様々な遊びの中で、特に「体育遊び」に関する調査をすることになりました。そこで先生方には御多忙中誠に恐縮ではございますがアンケート調査に、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

尚、**本調査で言う「体育（体操）遊び」とは**、幼稚園・保育所において様々な運動遊びが展開され、保育計画の上でも様々な呼称で計画されているかと存じますが、**特に「保育計画のなかで、設定保育活動として保育者又は、専門の体育（体操）指導者等によって集団的に、継続的に指導・実施される体育（体操）遊び」を指しています。特定の季節のみに実施される体育（体操）遊び（水泳・プール遊び等）及び、通常の保育活動で展開される運動遊びは除きます。**

アンケート回答の標準化を図るため、ご多忙とは存じますが主任教諭の先生において回答をお願いしたく存じます。

回答いただきましたアンケートは、9月30日迄にご記入のうえ、同封の返信用封筒にてご返送いただければ幸いに存じます。末筆ながら、先生方のご健康とご活躍をお祈りいたします。

1996年7月20日

＊　**回答は、該当する記号に○印又は、□・（　）内に簡単に説明をしてください。**

園（所）の概要

該当するところに○印又は、数字を記入してください。

注：2才未満児が入所している場合は、総て2歳児欄に合計してください

設置の別	私　立　・　公　立			
園児数	2　歳　児	3歳児（年少）	4歳児（年中）	5歳児（年長）
	男　　人	男　　人	男　　人	男　　人
	女　　人	女　　人	女　　人	女　　人
小　計				
合　計	人			
教員数	女子　　人　　男子　　人（実際に保育に携わる保母・教師）			

問1． 貴園（所）では、本調査で言う「体育（体操）遊び」を、日常の保育の内容として実施してみえますか。

ア． 実施している　　**イ．** 実施していない

→問4．～問16.　　→問2．・問3．・問15.・問16.

問2．問2．問3．は「問1．」で「イ」と答えた先生にお尋ねします。

貴園（所）で、本調査で言う「体育（体操）遊び」を、日常の保育の内容の一つとして実施して**いない理由**について簡単に説明してください。

問3． 園（所）では、幼児の運動的欲求はどのようにして満足させていますか。

ア． 通常保育の中で、遊びを通して満足させている。

イ． 幼児たちの自由遊びの活動の中で、満足させている。

ウ． その他（具体的に簡単に説明してください）

問4．問4．～問16．は「問1．」で「ア」と答えた先生にお尋ねします。

貴園（所）で、本調査で言う「体育（体操）遊び」を、日常の保育の内容の一つとして実施して**いる理由**について簡単に説明してください。

問5．貴園（所）では、本調査で言う「体育（体操）遊び」の指導（保育）は、どのような先生が担当していますか。

ア．一般の保母（教員）
イ．専任の保母（教員）の中で運動の得意な先生
ウ．専任の保母（教員）で専門又はトレーニングを受けた先生
エ．非常勤で専門又はトレーニングを受けた先生
オ．その他（　　）

問6．問6．問7．は「問4．」で（ウ・エ）と答えた先生にお尋ねします。

専門の先生又は、トレーニングを受けた先生とは具体的にどのような先生ですか。

ア．体育学部・体育学科等の卒業生
イ．幼児体育等専門トレーニング受講者
ウ．運動・スポーツの得意な先生（ア・イ以外）
エ．その他（　　）

問7．専門の先生又は、トレーニングを受けた先生とは、女性ですか、男性ですか。

ア．女性　　イ．男性

問 8． 貴園（所）の、本調査で言う「体育（体操）遊び」は、何回ほど計画実施されていますか。該当する回数と１回当たりの実施時間数を記入してください。

ア． 週　　回、１回当たり　　分間

イ． 月　　回、１回当たり　　分間

ウ． 年　　回、１回当たり　　分間

エ． その他（　　）

問 9． 貴園（所）では、本調査で言う「体育（体操）遊び」の計画は、季節などによって異なるかと思いますが、一週間の中で何曜日に計画されることが多いですか。

ア． 月曜日　**イ．** 火曜日　**ウ．** 水曜日　**エ．** 木曜日　**オ．** 金曜日

カ． 土曜日

問 10． 貴園（所）での、本調査で言う「体育（体操）遊び」の計画の対象児は、何歳児ですか。

ア． ５歳児（年長）のみ　**イ．** ４歳児（年中）のみ　**ウ．** ３歳児（年少）のみ

エ． ４・５歳児　**オ．** 在園（所）児全員　**カ．** その他（　　）

問 11． 貴園（所）での、本調査で言う「体育（体操）遊び」は、どのようにして計画されていますか。

ア． 園（所）の保育計画の上に、それぞれの保育の内容に系統的に組み込んでいる

イ． 園（所）の保育計画の上に、体育（体操）遊びの時間を確保し、内容は体育（体操）遊びの先生に任せている。

ウ． 系統的ではないが、保育計画の中で意識的に構成している。

エ． 子どもの活動欲求、要求があれば、各保母（教師）によって臨機応変に実施している。

オ． その他（具体的・簡単に説明してください）

問 12． 貴園（所）では、本調査で言う「体育（体操）遊び」を保育計画・保育内容上では、どのような名称を利用してみえますか。具体的名称を記入してください。

問 13. 貴園（所）での、本調査で言う「体育（体操）遊び」の実施方法は、どのようですか。

ア. クラス別で一斉指導（保育）

イ. 年齢別で一斉指導（保育）

ウ. 縦割り・混合保育で一斉指導（保育）

エ. その他の方法（具体的・簡単に説明してください）

問 14. 貴園（所）での、本調査で言う「体育（体操）遊び」の実施内容は、主にどのようなものですか。

ア. 比較的　フィールド・アスレチック的な複合的運動を中心に実施

イ. 比較的　鉄棒、マット、跳び箱等を利用した単一的運動を中心に実施

ウ. 複合的運動と単一的運動を保育計画にあわせて適宜実施

エ. サッカー、体操等の各種のスポーツ種目等を中心に実施

オ. その他（具体的・簡単に説明してください）

問 15. 貴園（所）では、本調査の対象になるような「体育（体操）遊び」の、今後の必要性については、どのように思われますか。

ア. 今後、必要と思う。

イ. 特に、必要ないと思う。

ウ. その他（回答者としてのご意見をください）

問 16. 貴園（所）では、保育時間以外に幼児を対象としたスポーツ教室等を開設してみえますか。

ア. 開設している　**イ.** 開設してみたいと思っている　**ウ.** 開設していない

ご協力ありがとうございました。